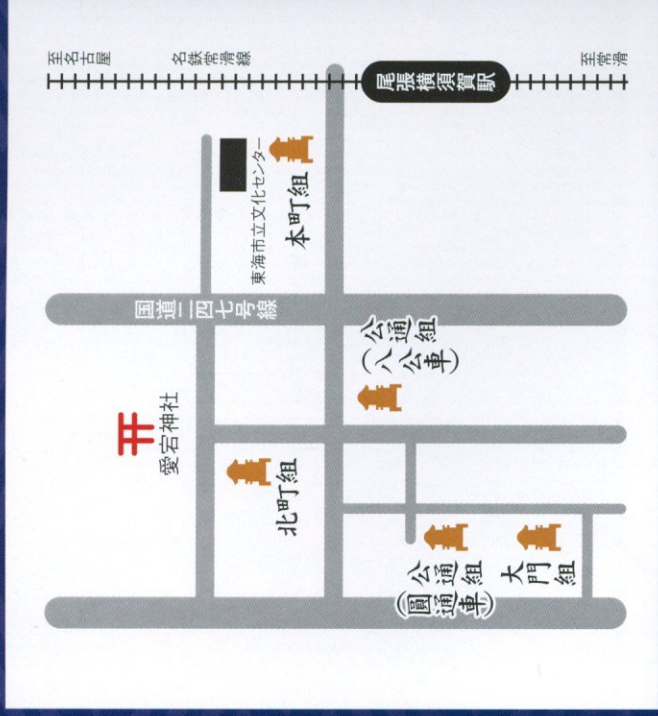
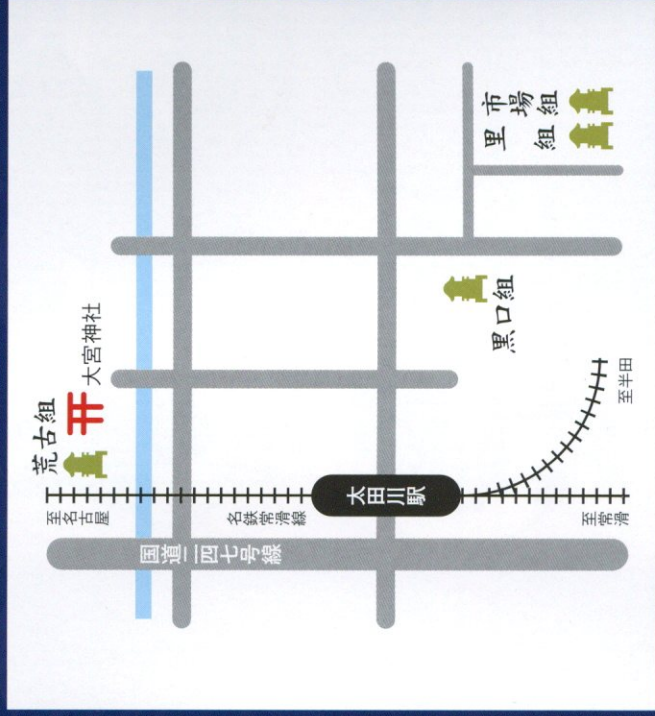


案内図

横須賀町の山車蔵所在地

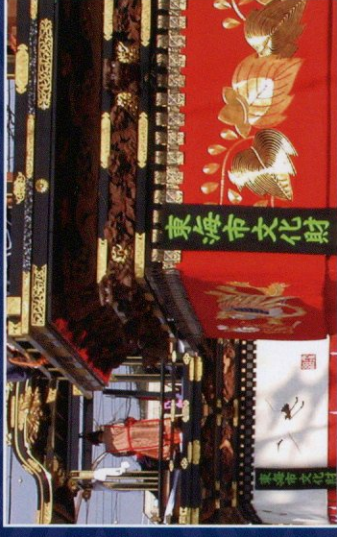


大田町の山車蔵所在地



だし 東海市の山車

—— 東海市の文化財 ——



発行：東海市教育委員会社会教育課

〒476-8601

愛知県東海市中央町一丁目1番地

電話 (052) 603-2211

(0562) 33-1111



横須賀町の山車

〈左から、本町組・北町組・大通組(八公車)・大門組(圓通車)〉



大田町の山車

〈左から、荒古組・里組・市場組・黒口組〉



横須賀町本町組

鶯地に松上の鶴



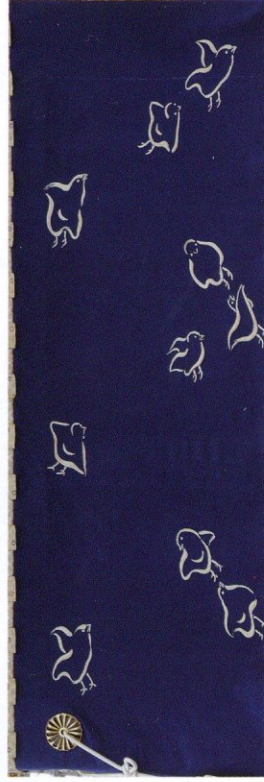
横須賀町北町組

赤地に金糸で竜虎・亀・鳳凰・麒麟(写真は竜虎)



横須賀町大門組

紺地に鳳凰の織物



横須賀町公通組(圓通車)

紫緋地に千鳥の乱舞



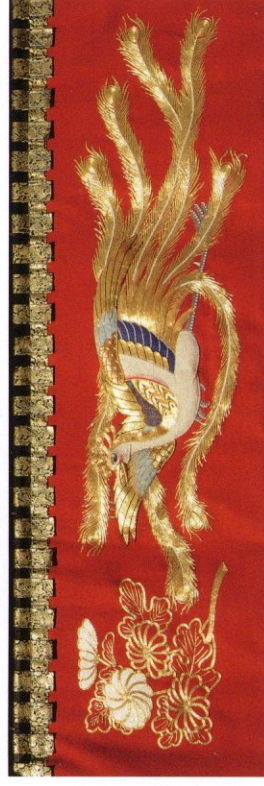
横須賀町公通組(八公車)

金糸で縫いつぶした上に吉祥模様散在している西陣織。

山車の水引幕

(撮影:野畑政行氏)

水引幕…山車の三方を囲み、山車を守る瑞鳥・四神などを表した幕です。



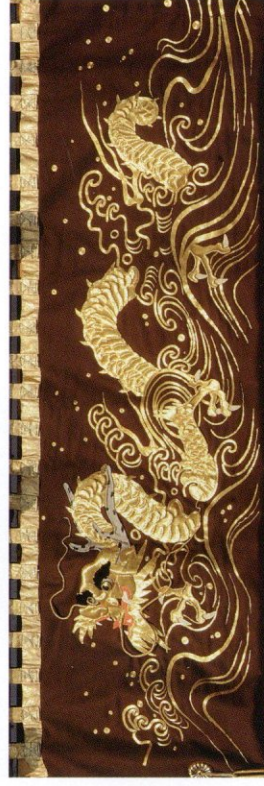
大田町黒口組

朱地に桐葉の中にはさんで鳳凰が左右に配されている。(写真は鳳)



大田町市場組

白地に5羽の鶴の舞う姿の縫い



大田町里組

焦げ茶地に三頭の龍の縫い



大田町荒古組

全面にバラの模様の織物

横須賀まつりと山車

横須賀まつりは、約300年前の寛文から元禄年間にかいけ、横須賀御殿にしばしば訪れた尾張2代藩主徳川光友公の旅情を慰めるため、奉納された傘鉾(かさぼこ)祭りがはじまりで、江戸時代末期に山車に替わったと言われています。

山車は、北町組、本町組、公通組(八公車・圓通車)の2台の山車が隔年毎に祭礼に出る・大門組の4組に別れ、愛宕神社の祭礼の日には山車を十字路で回転させる「どんでん」が行われ、祭りは最高潮に達します。

これらの山車は、「名古屋型」と呼ばれるもので横須賀が尾張藩と深い関係にあったことをうかがわせます。

大田まつりと山車

大田まつりは、かつて大宮神社の祭礼に奉納されていた傘鉾(かさぼこ)が、はじまりです。天明2年(1782)に荒古組が山車をつくり、次で里、市場、黒口の各組がこれにならってつくったといわれています。

山車は、祭礼の日、緩急おりまぜた囃子を演奏しながら大宮神社に参集して、からくり人形の芸を奉納し、「どんでん」をした後、各組内に奉祀されている「お天王さん」を中心に曳きまわされます。

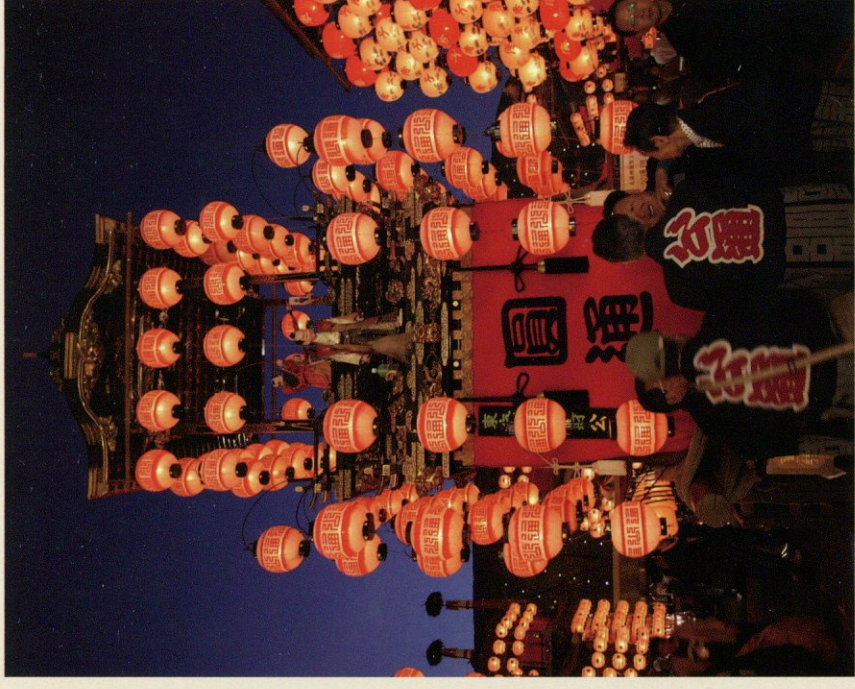
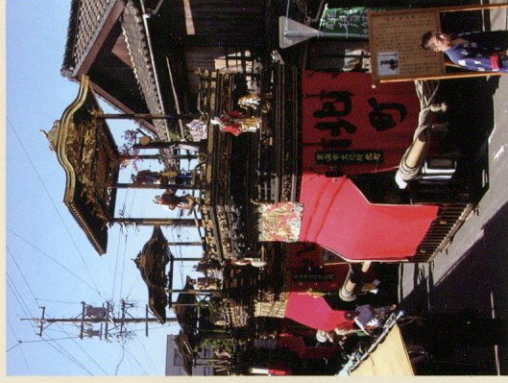
大田の山車は、知多半島に多く見られる「知多型」と呼ばれるもので、知多型古式の特徴を多く残しています。

東海市の山車

愛知県東海市には、現在横須賀町に5台、大田町に4台の山車があり、市の指定文化財として保存されています。

横須賀町の山車は、愛宕神社（横須賀町四ノ割23-1）の秋の例祭（毎年9月4土・日曜日）に、大田町の山車は、大宮神社（大田町上浜田138）の秋の例祭（毎年10月第1土・日曜日）に、それぞれ各町内をお囃しとともに曳きまわされ、その様子はにぎやかで勇壮なものです。

また、山車を飾る「からくり人形」は、江戸時代の精密技術を現代に伝えるものとして非常に素晴らしいものです。



本町組 (横須賀町)



文政9年(1826)頃建造。
高さ約6m80cm、間口2m50cm、
長さ5m70cm、重さ約5t

東海市指定文化財
昭和44年9月27日 第18号



前人形



上山人形

からくり…遊んでいる唐子が壘に落ちたのを、他の唐子が助けるために壘を割り、中から唐子が飛び出してくるというものです。

HONMACHI



文政10年(1827)建造。
高さ約6m75cm、間口2m50cm、
長さ5m65cm、重さ約5t

東海市指定文化財
昭和44年9月27日 第19号



前人形



上山人形

からくり…大木偶が連台を廻すと、台上の小木偶が大鼓をたたいたり逆立ちして鉦を叩くというものです。

北町組 (横須賀町)

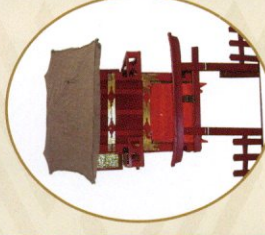


寛政年間(1789~1801)頃建造。
高さ約6m05cm、間口2m35cm、
長さ5m20cm、重さ約4t

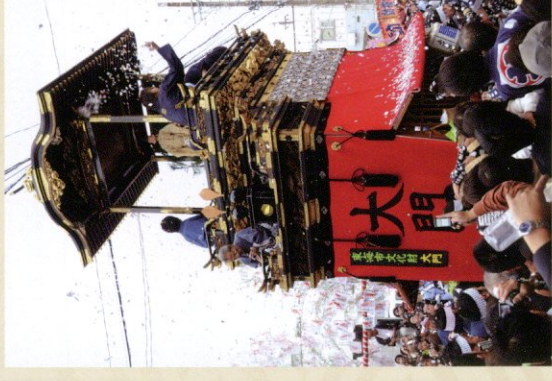
東海市指定文化財
昭和44年9月27日 第20号



上山人形



上山人形



大門組 (横須賀町)

からくり…扇と神楽鈴を持った三番叟が、獅子に合わせてくると向きを変えるやいなや、鳥居や齋垣を備えた社に瞬のうちに變化するというものです。

DAIMON

公通組(圓通車)

(横須賀町)

ENTHU



前人形



上山人形

寛政年間(1789~1801)頃建造。
高さ約6m45cm、間口2m55m、
長さ5m50cm、重さ約5t
東海市指定文化財
昭和44年9月27日 第21号

からくり…唐子(かざこ)が大人に矢を渡し弓を引くと矢が的に当り、的の前半分が前面に倒れ、小さな唐子が出てきて、出たり入ったりします。

公通組(八公車)

(横須賀町)

HACHIKOU



前人形



上山人形

寛政年間(1789~1801)頃建造。
高さ約6m15cm、間口2m50cm、
長さ5m45cm、重さ約5t
東海市指定文化財
昭和44年9月27日 第22号

からくり…唐子(かざこ)が大人の肩に止まって宙返りをし、大人の持っている太鼓を隣子(かたこ)に合わせてたく仕舞(たくし舞)をします。

黒口組

(大田町)

KUROKUCHI



上山人形

文政10年(1827)改造。
高さ約6m10cm、間口2m35cm、
長さ4m83cm
東海市指定文化財
昭和44年9月27日 第23号

からくり…小唐子(こかざこ)が大唐子(おおかざこ)に肩車(かたこ)をしてもらい、太鼓を叩き、その後、鳥の止まり木(とまりぎ)で小唐子がごうごうをします。

市場組

(大田町)

ICHIBA



上山人形

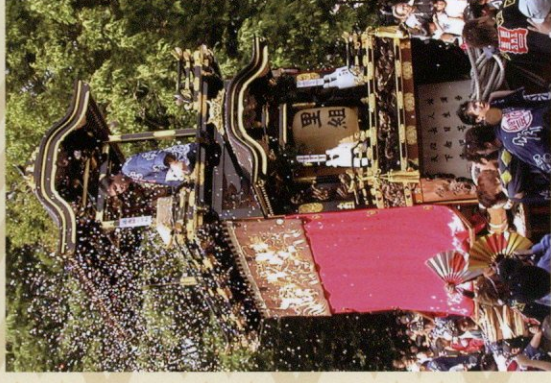
文政9年(1826)購入。
高さ約6m14cm、間口2m40cm、
長さ5m19cm
東海市指定文化財
昭和44年9月27日 第24号

からくり…大唐子(おおかざこ)の舞いで、肩に逆立ちした小唐子(こかざこ)が神楽鈴(かぐらすず)を持ち、隣子(かたこ)に合わせてその鈴を振り鳴らします。

里組

(大田町)

SATO



上山人形

文化13年(1816)改造。
高さ約6m10cm、間口2m26cm、
長さ4m65cm
東海市指定文化財
昭和44年9月27日 第25号

からくり…文字書き人形(かざこ)で、唐子(かざこ)が前につり下げられた額(かぶ)に文字を書きます。

荒古組

(大田町)

ARAKO



上山人形

天明2年(1782)建造。
高さ約6m15cm、間口2m26cm、
長さ5m18cm
東海市指定文化財
昭和44年9月27日 第26号

からくり…唐子(かざこ)2体が選台(せんたい)を廻すと、もう1体の唐子がせり上がつてきて逆立ち(さかちか)をして鉦(かね)を叩きます。